

## 第46期 三瓶宗紀

私達、46期が3年時には、部員総数が40名を越える所帯となっており一時期は、部内マッチ3チーム総当たり等が可能という大変恵まれた環境にありました。我々3年生だけでも14名と多人数であった事も、強みでした。3年時の経過を大まかに説明しますと、私達の上の代が抜けた時には、BKはある程度完成していた感がありましたが、まずはFWの強化が課題でした。

3年の春季大会では1、2回戦は勝ち進みましたが、3回戦の相手が強豪の本郷高校でした。試合は、まだ未完成であったFWがスクラム、モールで完全に粉碎され、マイボールを取ることができない為、決定力を持つBKを活用できず一方的なゲームとなってしまいました。数少ないチャンスをゲインに結びつけなんとか1PGを返し完封は免れました。

それから夏合宿を経て、秋の大会を迎える頃には、ある程度FWも強化でき、そこそこのレベルの相手であればセットからは崩されない程度にはなっておりBKは、SO、両CTB中心にディフェンスが充実し、WTB、FBに相当な決定力を持つという理想の形態ができてきました。

迎えた秋の全国大会予選、一回戦は都立光が丘高校でした。一回戦という事も多少固くなっていた感もありましたが、結果は18-0と、初戦勝利をおさめました。二回戦の相手は都立南高校。格下相手という事もあり、一次攻撃からトライという場面も多く、FW、BK共に良く走り、50-0という完封勝利をおさめました。三回戦は都立では充実している戸山高校でした。グラウンドは前日の

雨でぬかるんでおり、最悪のコンディションでした。前半は戸山の低いタックルに手こずり得点できず、逆に1トライビハインドされてしまいました。後半BKの見事なライン攻撃からワントライを返し、コンバートも決まり6-4と逆転し後半終了間際にもダメ押しのトライと10-4で勝利をおさめました。続く第四戦は初の私立校、明学東村山高校が相手でした。三回戦突破の勢いもあり、30-14で快勝しました。そして、五戦目、準々決勝の相手は、強豪私立城北高校でした。後に高校日本代表、オールジャパンのWTBとなる増保がFLでスタメン出場してきました。試合はFW、BK共に完全に相手が上回り良いところが一つもないまま0-76と完封負けを喫してしまいました。高校最後の試合は完敗でしたが、本大会にて都立高校では豊多摩高校と共に2校のみ残るというベスト8に進出できた事は、なによりの思い出だと思います。

そして良い結果が出せたのも、本人達の努力もさることながら、石瀬監督の献身的な指導と、菊池主将のキャプテンシーによるものが大きかったと思います。

46期メンバー ポジションは3年時のもの

(◎:主将、○:副将、●:FWリーダー、◇:BKリーダー)

●	猪	浅	浅	松	福	三	棚	永	◇	○	◎	泉
	侯	井	井	原	田	瓶	網	田	瓠	榎	菊	奥
	章	敦	康	弘	朝	宗	昭	秀	田	本	池	村
	夫	毅	広	和	之	紀		史	浩	優	永	友
										一	敏	孝
	PR	HO	PR	LO	LO	FL	FL No.8	SO	WTB	WTB	CTB	CTB
												FB
	FW						BK					

い、両地区のベストもが決まった。

両地区の準々決勝は11月5日、日大二高と成蹊高グラウンドで行われる。

【第一地区】

▽四回戦

国学院 44 3212 8 国立

久我山 44 03 0 森

目黒 72 3636 0 0 西工

豊多摩 28 226 0 0 日大二

日大二 20 184 67 13 日大鶴ヶ丘

独協 4 0 4 4 芸

城北 46 2422 67 13 慶大

千歳 30 1812 140 14 明学東村山

成蹊 60 3426 0 0 成

▽四回戦

【第二地区】

▽四回戦

科高 18 144 0 4 保谷

本郷 37 2017 0 0 早実

青山学 20 146 33 6 法政一

東京 60 3822 0 4 関東

都立 9 36 6 0 関東一

保徳 35 2213 10 4 秋川

明大中 26 224 0 0 富士

大東一 18 180 0 0 東海大

ベスト8決まる

高校ラグビー部対戦

ベスト8(5)対戦校々

・慶大十九回全国高校ラグビー大会準選(主催・都高)

体連、都高、都高ラグビー協

会、都高ラグビー協、東京

府、日大二高、日大二高

グラウンドなど第一、第二

両地区の四回戦対戦校々